

北東アジア

4

環日本海経済研究所

中国東北地域から日本への秋波

過去3回の連載で、あの程度北東アジアの状況が読者の方にはつかめたと思う。前回に関連し、日本に向けられている秋波につき紹介する。

2000年代後半、宿願であった中露国境策定問題が最終的に解決され、東北地域は隣接のロシアとの交易を活性化し始めた。この流れの一環として、東北地域では最

を買い付けている。また、綏芬河市の年収は国境貿易活性化の恩恵を受け、経済最先端都市の上海並みに達している。東北は建国当時から、工業で国

を担ってきた自負から、生産へのこだわり、商品へのこだわりを持っている。この点は粗悪品でもなんでも売ってしまい、利益を出すことに主眼を

日本としては、1000 km以内の未見の市場である、中国東北地域、特に中露国境地域に目を向ける時期に来ている。中国東北地域の総人口1億1000万人、ロシア極

合保税区」運営に関し、知識と経験が十分とはいえず、外資導入を積極的に行い、同保税区の有効活用を目指している。日本企業は中国の沿岸部に進出し、最前線で華商と火花を散らし、中国市場に進出してきた。中国市場を熟知した日系企業と、中国にしては品質に

初の「総合保税区」が、黒龍江省とロシア沿海地方の国境都市、綏芬河（すいふんが）に、10年に設置された。この保税区では「小売り」以外の業態がすべて認められ、保税地区を活用したビジネスを海外から招致することを目指している。

綏芬河市には年間数十万のロシア人が訪れ、安価な中国製日用雑貨など



綏芬河総合保税区

置く一般的な中国の地域とは異なる。潤沢な年収を手にした人々は、良質な製品を購入することに飢えており、日本製品に絶対の信頼を置くロシア人と相通するものがある。

幸いにして、ERIN A（環日本海経済研究所）はこの地域、とりわけ綏芬河市関係者とは旧知の間柄で、全幅の信頼を得ている。綏芬河市は「総

（この稿終わり）

（公益財団法人 環日本海経済研究所 経済交流部 佐藤 尚）